

スポーツとメディア ～メディアによるスポーツ～

桐蔭横浜大学 田中ゼミ T

○ 岡 あかね 木南 尚也 久保木将真
廣田 藍 村中 駿

1 現状・社会背景

インフォメーションテクノロジーが進化・普及し続けている。このような現代において人と人との関係が直接的な、いわば「リアル」ではなく、機械を通じた間接的なモノ「バーチャル」と呼ばれる文字や音声のみによるコミュニケーションになってしまっている。それにより、人と人が直接コミュニケーションをとる機会が少なくなっている。その結果として直接コミュニケーションを取ることが苦手な人が増えてきている。

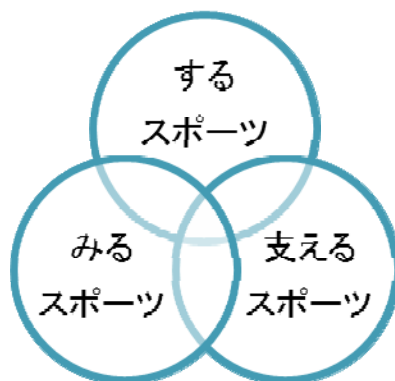
2. 研究目的

我々は直接的なコミュニケーションを復活させ、人の繋がりを増やすきっかけをメディアで増加させ、スポーツという切り口から考える。そして直接的なコミュニケーションの場をどのように増やしていくか、どのようにメディアを利用したらより効果的に働くか検討し政策提言を行う。

3. 考察

3.1 スポーツの性質

スポーツには



するスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツと 3 つの要素が含まれており、するスポーツを中心に考えると周りにも多くの影響がある。

体が健康になる、ストレスの発散、仲間ができる、多くの人と接する機会が増えるなど、スポーツをすることによって様々な効果を得ることができるが、ここでは仲間ができる、多くの人と接する機会が増えるといったコミュニケーションに関することに重点をおいて

考える。

そこでスポーツの実施率を上げることにより直接的なコミュニケーションをとるきっかけが増加すると考えた。

3.2 スポーツ普及

スポーツ実施率を上げるには、まず様々なスポーツを知ってもらう必要があると考える。そこでオリンピックではたくさんの人々がメディアを利用しスポーツに簡単に触れることができる考えると、メディアを上手く利用することがスポーツ普及に繋がるのである。

例として、サッカーの競技人口が増加した原因として挙げられるのが漫画「キャプテン翼」の影響である。他にも、高校生野球男児はたいてい甲子園を目指しているが、甲子園をテレビ中継することにより一層その夢は強くなると考える。しかし、スポーツといっても種類はとて多くある。その中でもマイナースポーツにスポットを当てて考える。

どうしてメジャースポーツでなくマイナースポーツなのかというと、理由は2つある。1つ目にメジャースポーツ（ここではサッカーとする）はメジャーであるため図1を見た通り競技人口の増加には限界が見られる。その点まだメジャーでないマイナースポーツは伸びしろがあると考えたからである。2つ目は、目新しさからマイナースポーツにとつきやすいのではないかということである。

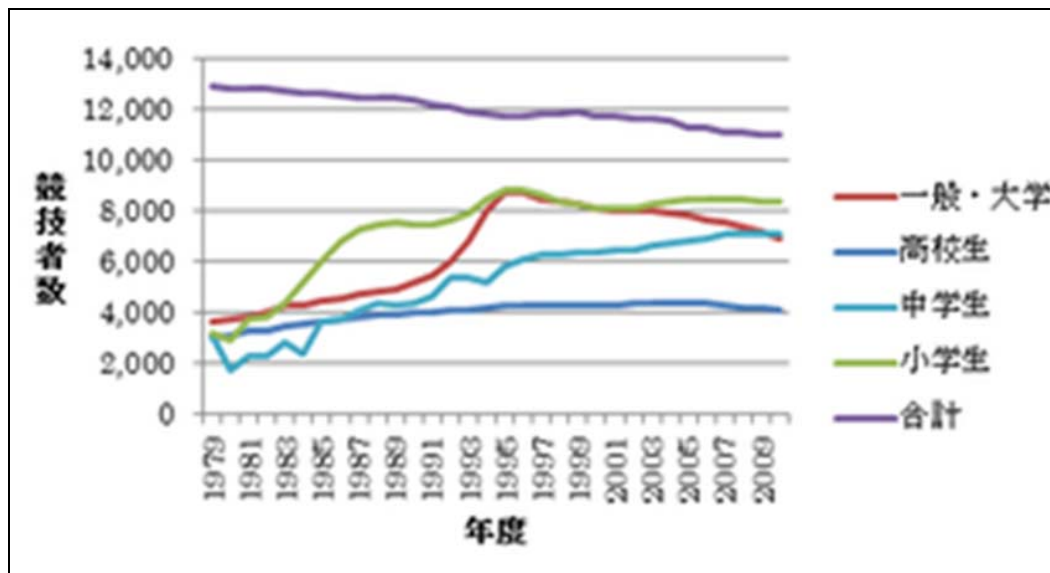


図1. サッカーの競技者数の推移

4. メディア媒体のアンケート

先ほど説明した通りスポーツをメジャーにするためには、漫画やテレビなどメディアの力が不可欠なのである。そのためメディアによってマイナースポーツを普及させる。その時どのような媒体を利用すれば効果的に情報を発信することができるのかを知るため、

100 人にどのようなメディア媒体からスポーツに関する知識を得ているかアンケートを取ってみた。その結果が図 2 のような結果が出た。

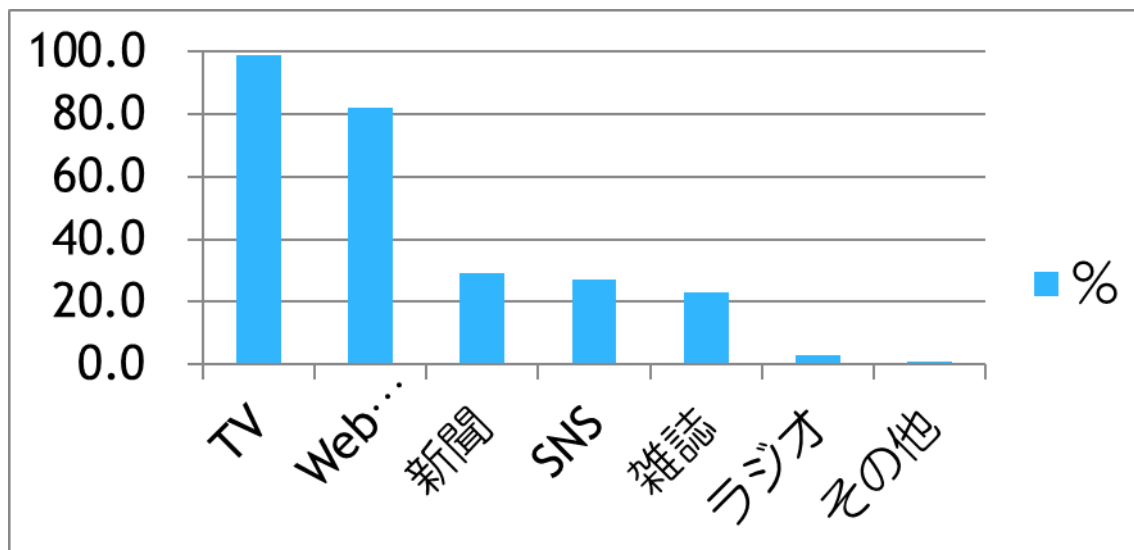


図 2. 街中 100 人に聞いたスポーツの情報をどのような媒体から得ているかアンケート
テレビから情報を得ているという人が 99%とほぼ全員の人が利用していることがわかる。そのため、テレビから情報を発信することにした。

そこで今放送しているレギュラスポーツ番組を調べてみた。すると 5 つの局で 29 のスポーツ番組を放送していた。するとスポーツ全体の情報番組、サッカー番組、野球番組、ゴルフ番組、競馬番組、釣り番組が主な番組であった。テレビの番組は偏っていることがわかる。

5. 政策提言 1

マイナースポーツをテレビというメディア媒体から日本中の人々に発信するために、NHK でマイナースポーツチャンネルを確立する。マイナースポーツチャンネルとは、NHK が新しいチャンネルを確立しオリンピック競技以外のスポーツを放送する。また、動画放送する。しかしそのためには放映権料がかかってしまう。そこでマイナースポーツの協会に放送するためのお金をもらう。また、マイナースポーツはメジャースポーツより放映権王が安いのでその分実現しやすい。

NHK の運営資金は我々国民から受信料制度により集めまかなわれている。マイナースポーツチャンネルが放送されれば興味のない人も新しくチャンネルができたという話題性からテレビを開く。するとはじめてみるスポーツだらけで興味を持ち、公園などでも運動するようになり、今までコミュニケーションのなかった人などとコミュニケーションを取る事ができる。

6. 政策提言 2

またスポーツを行う場が重要になってくる。しかし、ここでは新しい施設を作るのではなく現存する施設を違った使い方をしていくべきである。そのことを地域の人々に知ってもらうために、総合型地域スポーツクラブと連携を取り、宣伝活動を行う必要がある。回覧板やポスターなどでマイナースポーツを行う事の出来る施設を紹介していくべきである。

7. まとめ

これらの提言によりマイナースポーツを普及させることによって、人々がスポーツを通じてコミュニケーションをとっていけるようなより良い社会にしていきたい。

〈参考文献〉

- ・ NHK オンライン <http://www.nhk.or.jp/>
- ・ 公益財団法人日本サッカー協会 公式サイト <http://www.jfa.or.jp/>